

CMI 株式会社

横浜市鶴見区東寺尾中台20~3,301

TEL: 045~717~8575 FAX: 045~717~8683

2024年、中国の黒鉛電極市場と今後の見通し

1. 市場概況

2024年、中国の黒鉛電極市場は需給関係が緩み、価格が下げ気味の状態だった。

原料価格の低下は黒鉛電極のコスト削減につながる一方、高炉・電気炉企業の利益と生産稼働率は前年同期より大幅に低下し、黒鉛電極の需要が減少し、価格上昇が抑えられた。

黒鉛電極の3つの主要原料であるニードルコークス、石油コークス、コールタールピッチの2024年の市場を振り返ると、全体的に弱気の傾向を示した。ニードルコークスの価格変動は小さく、通年で200元/トン程度の上昇だった。上半期、石油コークスの価格は小幅に低下した後、10月から上昇し続け、今年の高値を更新した。コールタール深度加工関連はほぼ安定していたが、プライベート陽極の生産が不安定なため、コールタールピッチの需要が減少した。それに加えて、原料のコールタールの価格低下を受け、コールタールピッチは第2四半期から値下がりが続いた。

2. 供給量

2024年、中国の黒鉛電極の有効生産能力は140万トンを超え、生産量は63.77万トンだったと見込まれている。生産量の中にはRP黒鉛電極は7.23万トン、HP黒鉛電極は19.28万トン、UHP黒鉛電極は37.26万トンとなる。輸入品の単価が低いため、2024年の黒鉛電極輸入量は2,100トンで、2023年の1,170トンより大幅に増加した。

需要量

黒鉛電極の主な利用分野の一つは金属製錬で、黒鉛電極消費量全体の約80%を占める。そのうち、電気炉製鋼は51.2%、粗鋼精製は約29.4%を占めている。2024年1~11月、中国の粗鋼生産量は9億2,500万トンで、前年同期比2.93%減少し、黒鉛電極の需要量は低下した。

海外市場は中国黒鉛電極の重要な消費市場であり、輸出量は生産量の約半分を占める。国際貿易の影響を受け、2024年1~11月の中国黒鉛電極輸出量は30.47万トンで、前年同期比9.48%減少した。輸出先別の量で見ると、1位はロシアで2.94万トン（総輸出量の9.65%）、2位はアラブ首長国連邦で2.38万トン（7.82%）、3位は韓国で1.98万トン（6.49%）であった。輸出量上位10カ国で輸出量全体の54.50%を占めた。

3. 見通し

「3060」目標と環境規制の下で、黒鉛電極生産はエネルギー消費と炭素排出量の多い産業として、生産能力の拡張が制限されている。一方、方大炭素新材料科技股份有限公司（本社：甘粛省蘭州市）など一部の大手企業は生産拡大計画を掲げており、その新規生産能力の稼働開始に伴い市場供給量

CMI 株式会社

横浜市鶴見区東寺尾中台20~3,301

TEL: 045~717~8575 FAX: 045~717~8683

が増加するため、中小企業はさらに困難な局面を迎え、生産計画が抑制せざるを得ない。市場シェアがさらに大手企業に集中し、市場集中度が高まると見込まれている。

現在、中国の電気炉鋼の生産量は粗鋼生産量の約10%に相当する。国の電気炉製鋼支援策の推進に伴い、2025年の電気炉鋼の割合は15%~20%に上昇し、黒鉛電極の需要増加につながると期待されている。粗鋼の年間生産量が10億トンで計算すると、2025年の黒鉛電極需要量は約86万トンになる。その他、鉄鋼精錬、黄燐、シリコンメタルなどの産業が回復してくるならば、黒鉛電極の需要量は増加するだろう。

2024年10月14日、世界鉄鋼協会が発表した鉄鋼需要予測報告書によると、2024年の世界鉄鋼需要は前年同期比0.9%減の17億5,100万トン、2025年には同1.2%増の17億7,200万トンになる。2025年の世界黒鉛電極需要量は173万トンで、電気炉鋼の増産に伴い、黒鉛電極の需要は上昇すると期待されている。一方、国際貿易におけるアンチダンピング措置や輸出入規制が、中国の黒鉛電極の輸出量に影響を与える可能性がある。

情報源：石墨盟